

repo_json_anz\001室 入居者様0306.md

介護日報・生活分析レポート

対象日：2026年3月6日 対象者：001室 入居者様

1. 24時間の生活概況

本日は、深夜から早朝にかけての頻繁な介助介入と、日中の積極的な離室・活動が特徴的な一日でした。移動手段として車椅子と歩行器を併用されており、生活の場が自室と共用スペースに明確に分かれています。

- **深夜～早朝（00:00～06:00）**：入眠中もテレビを点灯したまま過ごす習慣が継続しています。03:30頃に排泄介助および寝具調整を受け、04:19には車椅子で一時離室されました。その後、05:22に再度ベッドへ戻り休息されています。
- **午前（06:00～12:00）**：08:26に介助により車椅子へ移乗し、午前の活動のため離室されました。不在の間、スタッフにより居室の清掃、窓の開閉、寝具の整備が集中的に行われました。11:19頃にはご自身で車椅子を操作し、収納棚の整理をされるなど、能動的な動作も見られました。
- **午後～夕刻（12:00～18:00）**：13:04より車椅子上での食事介助が行われました。午後は歩行器（シルバーカー）を用いた立位・歩行訓練や移動が目立ち、16:47から17:54にかけてはスタッフ付き添いのもと、入り口付近で歩行器を使用した活動を継続されました。
- **夜間（18:00～24:00）**：18:00以降は廊下での移動や離室が続いていましたが、19:35に介助により車椅子からベッドへ移乗。就寝準備を終え、19:41以降はベッド上での安静・入眠状態へ移行されています。

2. 生活パターンの分析と傾向

画像分析の結果、以下のような生活パターンが顕著に現れています。

- **「テレビ視聴と睡眠」の密接な関連**：就寝時および深夜帯、常にテレビが点灯しています。視聴しながら入眠し、覚醒するとまた視聴するというサイクルが心身の安定に寄与している可能性があります。
- **移動手段の使い分け**：長距離の移動や食事の際は車椅子を使用し、室内の移動やリハビリを兼ねた場面では歩行器を選択するなど、状況に応じた使い分けが定着しています。特に夕刻の歩行器使用時間は長く、活動意欲の高さが伺えます。
- **環境整備への反応**：本人が不在の間にスタッフが環境整備（窓拭き、掃除、カーテン操作）を行うことで、帰室後の安定した生活環境が保たれています。

- **収納物への関心**：11時台に車椅子で収納棚の整理をされる様子があり、ご自身の物品を管理したいという自立意識の高さが見て取れます。

3. 注意事項

- **転倒・転落リスク**：11:19頃、車椅子上で前かがみになり収納棚を操作する動作がありました。バランスを崩して前方へ転落するリスクがあるため、頻繁に使用する物品は、座ったまま安全に手が届く位置へ配置を再検討する必要があります。
- **深夜の覚醒と活動**：午前4時台に離床し活動する場面がありました。この時間帯はスタッフ数が限られるため、自力で動こうとした際の安全確保が課題となります。
- **テレビ点灯による睡眠への影響**：終夜テレビがついているため、熟睡感が得られているか、日中の活動に疲労感が出ていないか等の観察を継続してください。

4. 改善提案

- **収納レイアウトの最適化**：車椅子に乗った状態で無理なく出し入れができるよう、クローゼットや棚の中身を「使用頻度」に基づき再整理することを提案します。
- **歩行訓練時間の充実**：17時前後に歩行器での意欲的な活動が見られるため、この時間帯に合わせたリハビリメニューの強化や、見守り下での歩行機会の確保を検討してください。
- **照度・音量の夜間設定**：テレビをつけたままの入眠を尊重しつつ、入眠後はリモコンのタイマー機能等を利用して、徐々に音量を下げるなどの対応により、睡眠の質の向上を図れる可能性があります。

※本レポートはAIによる画像分析に基づき作成されており、解釈に誤りを含む可能性があります。実際のケアにあたっては、必ず現場での目視確認および本人へのヒアリングを併せて行ってください。